

事務事業名 市文化協会補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：622

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-10-00
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和59年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)			2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)						
筑紫野市文化協会			<概要> 筑紫野市文化協会は、昭和59年の設立以来、文化団体相互の交流・育成を図りつつ、広く市民に文化芸術の振興と本市における文化意識の高揚を目的とする団体である。 <主な事業> 「ちくしの芸術祭」の主催、福岡 ブロック(筑紫地区および糸島市)「芸術の祭典」への参加、先進地視察研修 <補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、広く市民が芸術に触れる機会である「ちくしの芸術祭」に対し交付している。						
3. 意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)									
・筑紫野市文化協会への加盟団体が増加し、市民の芸術文化事業が盛んになる。 ・安定した運営がおこなわれる。 ・次世代を担う人材が育成され、未来に渡り文化団体の活動が継続している。									
4. 成果 (簡易評価は未記入)									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
加盟文化団体数		組織	36	35	38				38
「ちくしの芸術祭」への参加人数		人	0	1,271	2,395				2,700
5. コスト									
事業費		計	千円	200	500	200	200		
		国	千円	0		0	0		
		県	千円	0		0	0		
		地方債	千円	0		0	0		
		その他	千円	0		0	0		
		一般	千円	200	500	200	200		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1	0.1			
正職員人件費		千円	803	792	773				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,003	1,292	973	200			
6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない (停滞・低下)		<状況>会員数については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、新規加入もありトータルでは横ばいといえる。 <原因>コロナ禍で思うように文化活動ができず、団体の高齢化を理由に会員数の減少がある。一方、若者のダンスサークルが入会するなど新たな会員の増加は、地道な宣伝活動等の成果である。							
7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)									
対象動向	維持	類似事業	なし	次世代への育成を図る必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし	コロナ禍において入場を制約しなければならない状態が続き、今後の文化活動の在り方を検討する必要がある					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)			改善方向性		維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用 (維持/事業終了の場合は記入する必要なし)									
本市主催のイベントが「ちくしの芸術祭」となっており、今後、文化・芸術触れる新たな機会が必要であると思われる									
事業開始背景及び現在の環境変化 (市民・議会等の要望)			備考・特記事項 or 進行管理欄						
昭和59年の文化会館建設時に関係団体として申請し、芸術文化の振興・育成のために補助を開始した。加盟団体の会員だけでなく、多くの市民が芸術文化に親しむことができるような事業や行事の実施が望まれている。									